

新聞感想文の部

わが家のルール

瀬戸内市・国府小3年

新田 栞乃



わたしは、この新聞記事を読んで、この前の土曜日のことを思い出しました。その日は友だちが遊びにくる日でした。わたしはお父さんとお母さんにはいよいよ、友だちにゲームをもってくるようにたのみました。そして、本当は、30分のやくそくなのに、時間をこえてもゲームをやめませんでした。やくそくをやぶったことは、はじめてのことでした。

その夜、やくそくをやぶったことについて、お母さんにしかられました。でもわたしは、「なんでわたしだけゲームができないの。みんな自由にやっているのに。」と泣きながら言い返しました。すると、お母さんが、こんなことを教えてくれました。ゲームを長い時間すると、目が悪くなったり、のうの一部が働かなくなったりして、イライラしたり、ものをきれいだなあと思えなくなったりするそうです。だからお母さんは、いつもルールを守らうねっというのだと分かりました。

わたしは、自分のうがそうなるのはいやなので、家族でルールをきめました。①ゲームはお休みの日に30分。②見るテレビをきめて見る。③ごはん中には、テレビをけす。④こまった時は、お父さんやお母さんにそうだんする。⑤ごまかさず、しょうじきにつたえらる。

これから、わたしはこのことを守りながら楽しく、気持ちよくゲームをしていきます。そして、目やのうを大切にしていきたいです。さん太タイムズの記事を読んで、わたしはお母さんにこんな手紙を書きました。

「この前のゲームでのうの一部がはたらかなくなるときいたときびっくりしました。たぶんしらなかつたらそうなっていたと思えます。おしえてくれて、ありがとうございます。」

このけいけんによって、家族としっかり話し合せて、自分なっとくしてルールをきめることが大切だとかんじました。まずは、今のわが家のルールをしっかり守ります。

小中学生のスマホ制限

岡山県教委

岡山県教委は1日、県内の小中学生に午後9時以降、スマートフォン・携帯電話を親に預け、利用を制限する統一ルールをスタートしました。家庭学習の時間確保による学力の向上、インターネット上

午後9時以降保護者が預かる

ゲームは午後9時まで

学校で考える場設ける

このいじめやトラブル防止が狙い。都道府県教委が主導し、全国的にスマホ・携帯の利用制限を行うのは全国で初めて。

統一ルールは、保護者が午後9時以降は子どものスマホ(携帯も含む)を預かる▽ゲームも午後9時までとする▽学校でスマホなどについて考える場を設けるの3点。

県教委は「スマートフォンやゲームなどの夜の使い方について考えましよう」と題したりフレットを作製。統一ルールに強制力はありませんが、市町村教委を通じて、各学校とPTAに順守を呼び掛けます。

10月31日には県教育委員会の会議があり、担当者が統一ルールの概要を説明。委員からは「家庭で話し合せて納得し、自主的にルールを守ってスマホ・携帯を使うことが重要」「(小中学生のスマホの利用時間の現状を)詳しく資料を作って保護者に説明すべき」といった意見もあり、県教委は今後PTAの会合に出向くなどして周知を図っていく計画です。

会議後、竹井千麻教育長は「半ば強制的にルールを設けた形となったが、スマホ・携帯をどう使っていくか、子どもたちが自主的に考える力を育てていきたい。学校、家庭も含め、なぜルールが設けられたのか、理解に努めてほしい」と話しました。

2014年11月9日付 山陽新聞さん太タイムズ

小中学生のスマートフォンやゲームの利用を制限する統一ルールについて、母親とのやり取りを通して考えたことを記事をもとに振り返り、素直につづっています。高い表現力に引きつけられます。

寸評